南アルプス市立豊小学校 平成３０年度前期学校関係者評価書

平 成 ３ ０ 年 ９ 月 吉 日
豊小学校学校関係者評価委員会
委 員 長　　梅 本　　澄 雄

【第２回　学校関係者評価委員会】

1　実施日　　平成３０年９月１４日（金）午後４時１５分から午後５時３０分まで

2　会　場　　豊小学校校長室

3　参加者

（1）　学校関係者評価委員（全員参加）

No.	氏　名	役　職　名	備　考
1	梅本　澄雄	元本校校長	学校関係者評価委員長
2	花輪　幸長	豊地区自治会会長	地域代表　副委員長
3	齊藤　尚子	元本校校長	学識経験者
4	津久井豊徳	元櫛形中学校校長	学識経験者
5	花輪　絹子	主任児童委員	地域代表
6	小林　秀司	平成３０年度ＰＴＡ会長	保護者代表

（2）学校職員（３名）

No.	氏　名	役　職　名	備　考
1	伊藤　正人	校長	
2	深澤　茂弥	教頭	事務局
3	丸山　哲也	教務主任	

4　学校から提案された内容

（1）教職員による前期自己評価アンケートの状況

（2）学校生活に関する前期児童アンケートの状況

（3）豊小学校前期自己評価書（アンケートの分析及び改善方策について）

5　協議内容・意見

〇豊小学校前期自己評価書に対する考察

（教職員・児童アンケートの考察／改善方策に対する検証）

（1）教育目標について

・学校教育目標や学校経営方針が明確に示され，「めざす豊の子像」や「教師のテーマ」及び５つの重点項目が盛り込まれ，「確かな学力」「しなやかな心・健やかな体」「環境整備」などについて共通理解を図り，それらをＰＴＡ総会や学年通信ホームページ等で伝えているので，保護者や地域にも浸透していると思われる。今後，開放日・行事等を通してさらに理解を深めてもらうとよい。

・教職員間において，学校教育方針の共通理解を図り，組織「チーム豊」として当事者意識を持ち教育活動・学校運営に今後も励んでほしい。

（2）学校経営・組織について

・児童に対する様々な問題に対して，教職員の個々の能力や経験を活かしながら，組織として効果的な取り組みを行ってきた。今年度はさらに，「誠意は，スピードである」を共通理解のもと，生徒指導上の問題も早期発見・早期対応を心がけてくれている。これからも信頼される学校づくりに励んでもらいたい。

・特性を持つ児童が増加傾向にある。その対応については，特別支援コーデイネーターを中心にして，外部の専門機関と連携して取り組んでいることは，児童にとっても，保護者にとっても大切なことである。スクールカウンセラーの導入もあり，より専門

的な対応が期待できる。ケース会議や校内支援委員会などで，有効活的な活用を心がけてほしい。

・危機管理意識の醸成には、常に身近で起こることを意識させること，訓練の段階から真剣に取り組ませることが大切である。さらに,「自分の命は自分で守ることを」徹底させていくことが大切である。

（３）学習指導について

・「豊小学びプラン」が定着し，学力の向上につながっている。児童の学習意欲のさらなる向上のために，教材研究と学習規律を身に付けさせていく必要がある。

・ここ数年学力テストの復活とともに，競争心を刺激し，点数の底上げをあおる報道を多く目にする。点数だけを問題視せず，本当の学ぶ喜び・わかる楽しさが実感できる授業改善につなげていってほしい。絶対評価にしろ，相対評価にしろ、個々の特性を理解し，一人一人のよりよい成長を願うものでなればならない。

・「家庭学習がんばろう週間」の取り組みを通して，成果を上げていることが教職員アンケートと児童アンケートの数字からも分かる。また，自主学習ノートを校長に提出することを励みに，自主学習に積極的に取り組む児童が増えていることはよいことである。継続と徹底をキーワードにこれからも続けてほしい。

・６年生が行っている養蚕学習は，豊小学校の特色であり伝統になっている。地域の歴史を学ぶ機会にもなる。ただ，しっかり評価をし，豊小の現状にそぐわぬものかどうか議論を深めたい。沢登地区の「切子」とともにこれからも課題を投げかけて子どもたちと供に議論し合うことが必要である。

（４）道徳について

・道徳は，全教育活動を通して道徳的心情を育んでいくものである。さらに，実践力は日頃の日常的な活動が大切である。豊小は,「あいさつ」「はきものの整頓」「廊下を走らない」など，率先垂範でよく取り組んでいる。特に，あいさつは，自己表現の入口であり，自分自身を表現することである。当たり前のこととして継続した取り組みをお願いする。本市の教育の基本として「小笠原流礼法」の礼儀作法を師範から体験的に学び，生活や行事の中に活かしていくことが大切である。礼儀指導は，心の教育にもつながるものである。

・教科化とともに，評価することも学校に託されている。道徳心を評価することは大変難しいことである。道徳的実践力の向上を目指して，教師も学ぶことを続けてほしい。

（５）特別活動について

・今年度の児童会活動「未来へ DASH!いつも明るい豊の子」をテーマに実践力の育成と意欲化に取り組んでいる。「あいさつ運動」「なかよし運動」豊「ボランテイア活動」に取り組み，成果が上がっている。今年度は，小中連携した取り組みを意識してきた。今後も取り組みと評価に工夫を凝らし，小中一貫教育を推進してほしい。

・委員会活動・クラブ活動は，地域の方々の御協力・御支援に支えられ，地域文化の伝承活動にもつながり，充実した活動となっている。外国語活動の時数の増加とともに特別活動の常設時間の確保が難しくなっている。休み時間，放課後との有効利用を心がけてほしい。

（６）学校行事

・多忙化のためには行事の精選が不可欠である。ねらいを明確にし，普段の生活や学習で得たことを活かせる行事を実践し，児童の達成感や成就感につなげてほしい。振り返り・総括をていねいにしていく必要がある。次につながる活動を心がけてほしい。時には，思いきった改革も必要である。

（７）生徒指導・生活指導について

・あいさつをする児童については，個人差のことが毎年のように言われている。見守り隊の感想にも個人差をあげている。あいさつはしているが気持ちがない子，気持ちがあるが言えない子，など評価は難しい。「明るく元気なあいさつ」が豊小の課題の一つである。積極的なあいさつができるように，継続した取り組みをお願いしたい。あいさつは自己表現であり，コミュニケーション力の基本であるという共通認識のもと，教育を行ってほしい。

・基本的な生活習慣が，児童の学校生活･学力に影響を与えている。児童の問題・課題に対しては, 家庭と連携協力する中で, これからも早期発見･早期対応を心がけてほしい。

（８）勤務について

・定刻退勤日の月一回の設定で，時間管理をさらに意識するようになっている。早朝から勤務したり，休日も学校に来て仕事をしたりしている職員もいるようだが，健康には十分留意し職務に励んでもらいたい。大変忙しいとは思うが，児童と接する時間の確保に努めてほしい。

・今年から出勤退勤時間を入力することで，働き方改革の一つに取り組んでいる。教師の仕事は，時間では測れない仕事であるが，自己管理することで，仕事にめりはりを付けて取り組んでほしい。

（９）ＰＴＡ・地域社会について

・各自治会長も学校と協力し，地区の環境整備に努めたい。今年度は，避難所備品庫を設置した。避難所運営訓練も１２月に実施される。防災意識の向上を図りたい。

・今後も学校・家庭(保護者)・地域・教育委員会が連携して児童の育成にあたる情報提供や協力体制を築いてほしい。

・学校の垣根を低くし，ゆとりある気持ちで，みんなで子どもを育てる意識が大切になっています。「地域の子供は地域で育てる」ことを心がけていきたい。

６　今後の課題

（１） 学習指導について

・校内研究で取り組んでいる「算数科を中心とした学び合い，高め合う授業」の研究を充実させて，児童一人一人が自分の考えをもち，安心して発言できるようなクラスづくりを通して「確かな学力」の育成につなげる必要がある。

・朝学習や授業の中で，課題と思われる領域や問題を意図的に取り上げ，課題克服につなげる。継続と徹底で地道な取り組みを続けていく必要がある。

・豊小児童のすべてが，本を読むことを好きになってほしい。文章を読み取る力を身に付けていく必要がある。

・夏の厳しい暑さを受けて熱中症対策が学校での大きな課題となった。運動会の実施時期や競技時間の短縮など考えていかなければならない。

（２） 道徳について

・明るく積極的なあいさつができるように，児童会の取り組みも含め，継続的地道な取り組みが必要である。年齢や学年に応じて取り組み方法を考え，自己表現力の向上につなげる。継続と徹底を意識した取り組みを心がける。

・道徳が教科化になり話し合い活動（議論・討論を仕組む）をベースに授業を展開する方向で道徳的実践力が, すぐに身に付くとは思えない。地味な取り組みが必要である。

（３）生徒指導について

・「いじめは絶対許さない」を学校全体の合言葉として，さらに生徒指導の徹底を図る。児童の些細な言動にも敏感に捉え, アンテナを高くし, 予防的視点, 姿勢を持って日々の活動を心がける。

・問題や課題は一人で抱え込まないで，総がかりで取り組んでいく必要がある。